27　救急外来にて腸炎と疑ったために対応が遅れた糖尿病性ケトアシドーシスの一例

中部徳洲会病院　初期研修医
遠藤　啓孝

【はじめに】嘔吐を主訴に来院された糖尿病の既往歴のない患者に腸炎を疑い対応したために初期治療開始までに時間を要した症例を経験した。腸炎と決めつけて診断してしまうことの恐ろしさや時間がない救急外来の中でも重症疾患を鑑別に挙げて問診・検査することの重要性を改めて認識し研修医として反省すべき一例を報告する。

【症例】34歳　男性

【主訴】繰り返す嘔吐

【現病歴】来院2週間前から嘔吐が続いており改善せず、来院数日前からは嘔吐の回数が増えてきて食事も全くとれないから点滴希望にて救急外来受診した。

【既往歴】特になし

【主要な身体所見】身長170cm 体重91kg 体温36.6度　血圧117/86mmHg　脈拍115回/分　呼吸数24回/分　腹部：軟　膨隆　腸蠕動音亢進　上腹部を中心に全体的に腹部圧痛あり　反跳痛なし

【救急外来での経過】上記現病歴や身体所見から腸炎の可能性を考えて、とりあえず補液（ラクトリンゲル）と血液検査と腸閉塞の可能性も否定できないために腹部CTも行った。1時間後血液検査の結果を確認したところ血糖659mg/dl、血中浸透圧312mOSM/kgであった。急きょ追加問診と尿検査や血液ガス検査を追加で行った。清涼飲料水を好んで飲み、ここ最近は頻繁に喉が渇くために炭酸飲料をたくさん飲んでおり。来院までの2週間で体重は10kgほど減少した。また父親が糖尿病であった。尿検査にてケトン体4+、尿糖4+を認めて血液ガスでは pH7.187　HCO3 0+7.9mmol/l　、CO2 21.2mmHg、AGは21であった。これらより糖尿病性ケトアシドーシスを疑いにて補液とインスリン静注などの初期治療を開始して入院加療とした。

【考察】入院後の精査にて2型糖尿病からの糖尿病性ケトアシドーシスであると改めて診断された。今回初期対応が遅れた思考のエラーを検証し、糖尿病性ケトアシドーシスについての文献的考察を含めて報告する。

28　県産桑の葉を原料としたお茶による血糖値の制御

キンザー前クリニック[1]、沖縄工業高等専門学校[2]、浦添市産業振興課農林水産係[3]
島尻　佳典[1)]、久米　大祐[2)]、伊東　昌章[2)]、大塚　京平[3)]

【背景】
桑の葉は食後の血糖吸収を遅延させるα-グルコシダーゼ阻害剤（α-GI）様成分を含有し、沖縄に自生する桑（シマグワ：Morus australis）は本土の桑と異なり、この成分含有量とα-グルコシダーゼ阻害能が高いことを明らかにしてきた。

【目的】
浦添市で生産されるシマグワ葉パウダー（商品名「浦添てだ桑茶・パウダータイプ」）に血糖上昇抑制効果があるか検討する。

【対象及び方法】
健常成人15名（男性6名、女性9名）を対象に75g経口糖負荷試験（OGTT）を施行した。同一被験者にシマグワ葉パウダー（2g）を負荷15分前に摂取させる場合（シマグワ条件）と、摂取させない場合（対照条件）の2条件で血糖値及びインスリンの変化を比較した。2条件の試験は1週間以内に施行し、順序はランダムに振り分けた。研究は当院倫理委員会により承認された。統計は繰り返しのある二要因分散分析及びBonferroniの多重比較検定を用い、5%未満を有意水準とした。

【結果】
シマグワ条件で糖負荷30分後に頂値となった血糖値（111±15 mg/dl）は、対照（119±21）と比較し低値で、120分値（93±14）は対照（82±17）より遷延して高値であった（$P<0.05$）。インスリン分泌もこれに対応し30分値（23±13 μU/mL）は対照（37±15）より低く、120分値（24±9 vs. 18±9 対照）が遅延した（$P<0.05$）。

【考察】
産官学連携事業の一環として浦添近辺で生育する桑を用いて血糖値への効果を検討した。結果、シマグワ葉パウダーを喫するとOGTTにおいて血糖応答性にインスリン分泌も抑制されることが明らかになった。健常者を用いて観察しており、糖尿病の発症予防効果が期待される。作用機序はα-GIと同様と考えられる。今後は副次効果も含めて長期効用を検証する必要がある。食事負荷試験は施行していないため食後血糖に影響するかは不明である。

【結語】
県産桑の葉は75gOGTTにおいて30分後の血糖値を抑制し、インスリン分泌も遅延させる。